

## 「Creating Tomorrow Report (統合報告書)」を初発行しました。



太平洋工業グループは、パーパス、中長期経営構想、中期経営計画に沿って、統合思考で当社の価値づくりをお伝えする「Creating Tomorrow Report (統合報告書) 2023」を新たに発行いたしました。当報告書は、投資家や株主の皆様をはじめとし、当社の価値づくりの主役としての従業員など、ステークホルダーの皆様へ、当社の価値づくりをよりご理解いただき、対話を実施し、信頼を醸成していくためのコミュニケーションツールと位置付けております。なお、ステークホルダーの皆様向けにサステナビリティ・マテリアリティ (重要課題) の取り組みの進捗を説明したこれまでのサステナビリティレポートは、引き続き別冊 (PDF) の「サステナビリティデータブック2023」として開示しております。「Creating Tomorrow Report 2023」と「サステナビリティデータブック2023」は、当社Webサイトからご覧いただくことができます。

当社は、世界最大規模の公的年金運用機関である年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) が採用する代表的なESG指数「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に初めて選定されました。同じくGPIFが採用する「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」にも、昨年に引き続き選定されています。



FTSE Blossom Japan Index

### 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 Tel. 0120-232-7111 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場、 名古屋証券取引所プレミアム市場
単元株式数	100株
証券コード	7250
公告の方法	当社のWebサイトに掲載いたします。 公告掲載URL <a href="https://www.pacific-ind.co.jp/koukoku/">https://www.pacific-ind.co.jp/koukoku/</a>  (ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、中部経済新聞および日本経済新聞に公告いたします。)

### ■ ご注意

- 株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社で承ることとなっております。なお、証券会社等に口座がないために特別口座を開設された株主様は、特別口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店にて承ります。

### 会社の概要

社名	太平洋工業株式会社 Pacific Industrial Co., Ltd.
設立	1930年8月8日
資本金	7,316百万円
事業内容	自動車部品、電子機器製品等の開発・製造 ならびに販売
ネットワーク	海外8カ国13社 国内8拠点4社

株主の皆様へ

## 第100期中間のご報告

2023年4月1日～2023年9月30日

思いをこめて、あしたをつくる  
Passion in Creating Tomorrow



太平洋工業株式会社 証券コード：7250

### Top Message

## 社会から必要とされる企業であるために、 変わり続けます。

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

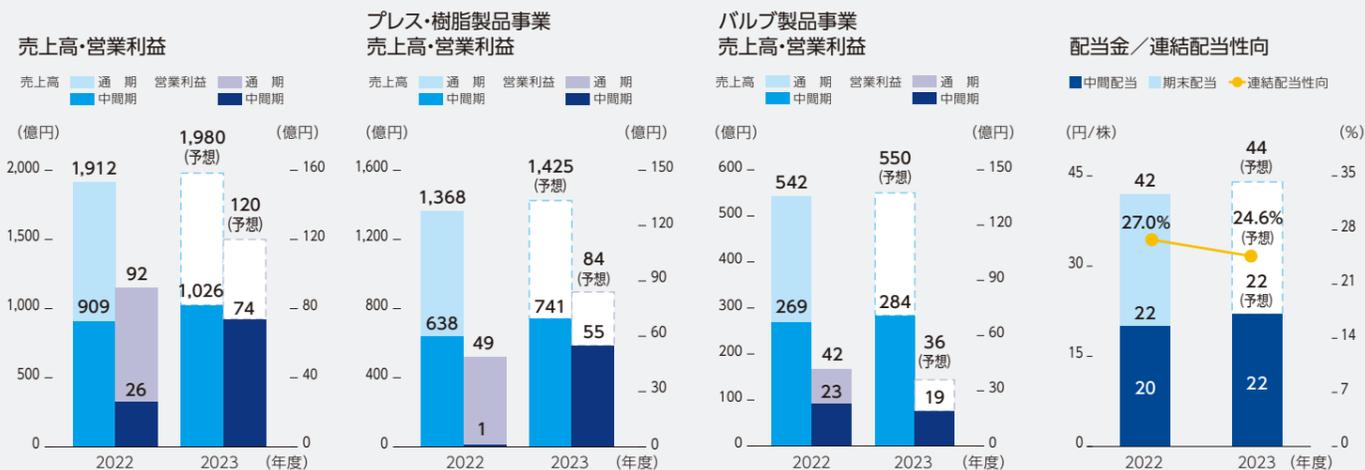
当社グループの主要事業分野である自動車関連業界におきましては、半導体などの部品不足の解消により主要顧客の自動車生産は順調に推移しております。このような中、当社グループでは、人員・部材の確保等を行い、受注変動に合わせた生産活動を行ってまいりました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、販売物量の増加や円安による為替換算の影響もあり、1,026億55百万円 (前年同期比12.9%増) となりました。利益面では、販売物量の増加や原価改善活動を継続的に推進したことにより、営業利益は74億94百万円 (前年同期比188.0%増) となり、経常利益は、営業利益の増加に加え、円安による為替差益が大きく、103億31百万円 (前年同期比86.4%増) となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、75億31百万円 (前年同期比82.3%増) となりました。なお、売上高および各利益につきましては、第2四半期連結累計期間で過去最高となっております。

株主の皆様への利益還元につきましては、当中間配当金は1株につき予想より2円増配とさせていただきます。2023年11月



代表取締役社長 小川哲史

## 連結中間業績ハイライト



# 電動車向け売上拡大に向けて

## 01 東大垣工場の新工場が稼働開始

当社は、顧客ニーズの拡大を背景に、生産能力の増強に加え、より動きやすく、よりCO<sub>2</sub>排出量の少ない新工場の建設を、東大垣工場隣地で進めていましたが、11月に新プレス工場の稼働を開始しました。主には国内主要顧客の電動車向けプレス製品などの生産能力が強化されます。今後、金型製作能力を向上させる金型工場(2024年12月)、樹脂とIoT関連製品の開発力強化のための開発センター(2025年7月)も順次稼働予定です。

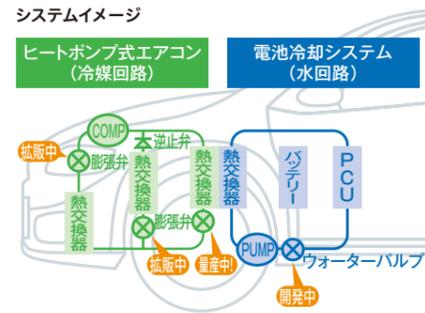


## 電動車向けに、新しい製品の柱を 熱マネジメントシステム向け制御バルブ、生産開始

## 02



BEV(電気自動車)では限られた電池エネルギーを効率よく使い、電池性能を維持するための温度調整が必要になることから、ヒートポンプ式の熱マネジメントシステムの採用が進んでおります。その中で電動膨張弁はシステム内の冷媒を制御する重要な役割を担っており、今回、バッテリー冷却に使用する当社製の膨張弁が、初めてお客様に採用され、2023年4月に生産を開始しました。



## 03 次世代型TPMS、Gタイプ登場

当社の主力製品であるTPMS(タイヤ空気圧監視システム)の最新版である「Gタイプ」を開発し、国内外で量産を開始しました。「Gタイプ」は、各部門が協力して品質向上と小型化を推進することで、競争力のある価格を実現し、その成果が認められ、日産自動車より「Global Innovation Award」を受賞しました。「Gタイプ」は、北米の車種など、世界の様々な地域の車種で採用が進んでいます。



# 新分野での柱の確立のために

## 01 新たな価値創造へ Ωプロジェクト始動

中期経営計画策定の過程で、新分野への挑戦、パーパスによる人財の活躍が掲げられ、新規事業創出プロジェクトが立ち上がりました。創業者の「尺取り虫精神」にちなみ、その形を象った「Ω(オメガ)」と名づけられました。経営陣も全面サポートし、公募で100名を超える従業員が参加、94件の提案のうち、7件が2次審査に進みました。今後ビジネスモデル仮説の構築や仮説検証などを進めます。このΩプロジェクトを毎年開催することにより、新規事業を創出する風土を定着させていきます。

「尺取り虫精神」と「究極をめざす」という意味が込められたロゴ



参加者 106名



### POINT 1

トップダウンとボトムアップの融合



従業員の思いで始まったプロジェクトを社長も全面バックアップ

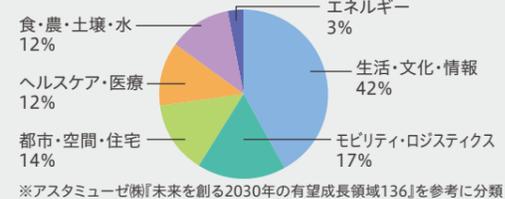
### POINT 2

公募式で多数が参加



### POINT 3

成長市場を捉えたテーマ



※アスタムーゼ㈱「未来を創る2030年の有望成長領域136」を参考に分類

## 02 アップサイクル防災用マットを開発

当社は9月に、大垣市、大垣市教育委員会と「防災用マットの開発に向けた実証実験に関する連携協定」を締結しました。この防災用マット「MATOMAT」は、当社の生産過程で出るウレタン端材を粉砕して固めてクッションにし、カバーをかぶせて製品化したものです。普段は、小中学校の教室で椅子のクッションとして使用し、災害時にはつなげて防災マットとして活用することが可能です。製作にあたっては、地元企業や福祉作業所にもお手伝いいただき、地域とも連携した、アップサイクルの取り組みとなっております。今後さらに改善を図り、2024年4月に発売予定です。



SNS アカウントのフォローをよろしくお願いいたします。

## 03 QR読み取り&情報表示システム「直Q楽R」

当社は10月に、既存のQRやバーコードをスキャンすることで、関連ファイルを簡単に表示できる現場改善ツール「直Q楽R(ちよつきゅうらくらく)」をリリースしました。これにより品質向上やペーパーレス化による環境負荷の低減にも貢献していきます。

